

## 次世代育成支援対策交付金事業の事後評価資料

### 生後4か月までの全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)【2-1-4】

資料

・事業内容

すべての乳児がいる家庭を訪問し、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する情報提供等を行うとともに、親子の心身の状況や養育環境等の把握や助言を行い、支援が必要な家庭に対しては適切なサービス提供に結びつけることを目的とする事業。平成21年度までにカバー率(対象家庭に対する訪問実績)100%を目指す。

・事業量実績(2月末時点) ( )内は事業計画

訪問対象全家庭数	生後4か月までの全戸訪問事業による訪問家庭数			
( 1,250 件)	( 800 件)	( 64 %)	うち、新生児訪問指導等と同時に実施	
			( 750 件)	( 60 %)
1,166 件	729 件	62.5 %	711 件	61.0 %

#### 事業ごとの評価、改善に向けた取組状況等

	(1)事業計画と実施結果との間に大きな乖離がなかったか	(2)乖離の原因や実施主体、実施方法等の見直し	(3)20年度事業計画への反映
事業量について	あった		訪問を実施する職員等の増員を図る。
	なかった		
事業内容について	得られた	ほぼ計画どおりの事業が実施できた。ただし4か月までに自宅に戻らない母子が増加してきているため、次年度以降、計画数を実施できるかが課題である。	里帰り先の市区町村との連携の強化を図る。育児の悩みの聞き取りや要支援家庭の援助等について、的確な把握や、支援の導入への橋渡しができるよう、研修を充実する。
	得られなかった		
連携・協力について	(1)連携・協力・協働できたか	(2)できた場合はどのような点で連携・協力・協働できたか、できなかった場合は連携・協力・協働できなかった理由	(3)20年度事業計画への反映
	できた	育児支援家庭訪問(専門的及び日常的支援)による積極的支援に速やかに移行する訪問事業が展開できた。	
	できなかった		地域の子育てサークル、地域の先輩ママグループなどの地域との連携の強化を図る。

## 次世代育成支援対策交付金事業の事後評価資料

### 育児支援家庭訪問事業【6-1-9】

資料

・事業内容

関係機関等からの情報収集等により把握した養育困難家庭で養育支援の必要があると判断したものに対し、子育て経験者等による育児・家庭の援助又は保健師等による具体的な育児支援に関する技術的援助を訪問により実施する事業。

・事業量実績(2月末時点) ( )内は事業計画

訪問実家庭数			訪問延件数		
育児・家事等の援助	育児支援に関する技術的援助	分娩に関わった産科医療機関の助産師等が行う訪問援助	育児・家事等の援助	育児支援に関する技術的援助	分娩に関わった産科医療機関の助産師等が行う訪問援助
( 20 か所)	( 25 か所)	( 5 か所)	( 200 件)	( 120 件)	( 50 件)
9 か所	40 か所	3 か所	93 件	114 件	10 件
訪問支援者実人数					
育児・家事等の援助	育児支援に関する技術的援助			分娩に関わった産科医療機関の助産師等が行う訪問支援	
ヘルパー、子育てOB等	保育士等	保健師、助産師等	理学療法士等	産科医療機関の助産師等	
( 20 人)	( 0 人)	( 13 人)	( 5 人)	( 5 人)	
14 人	3 人	13 人	4 人	3 人	

### 事業ごとの評価、改善に向けた取組状況等

	(1)事業計画と実施結果との間に大きな乖離がなかったか	(2)乖離の原因や実施主体、実施方法等の見直し	(3)20年度事業計画への反映
事業量について	あった	本事業は、育児・家事等の援助を行う日常的支援と、育児支援に関する技術的援助等を行う専門的支援がある。このうち、育児・家事等の援助には事業計画との間に乖離はあったものの、専門的支援の伸びは顕著であり、事業全体としてみると、事業推進方法に問題はない。	支援の導入までの期間が、より短くなるようなマンパワーの確保を行う。 また、19年度と同様に対象家庭の課題・情報を共有し、連携体制の充実を図ることで、制度の成果を高める。
	なかった		
事業内容について	(1)事業計画が想定した利用や効果が得られたか	(2)想定した利用や効果が得られた、または得られなかった原因や、より効果的な事業展開を図っていくための課題	(3)20年度事業計画への反映
	得られた	昨年同様、虐待予防、防止、地域の連絡など、当該事業の趣旨に沿いながら積極的に支援ができた。 また、支援サービス連絡調整会議で情報を共有し、支援方針を共有していることによる効果も得られた。	19年度同様、母子保健の分野と子育て支援の分野の双方が連携しながら進めている特長を生かし、今後とも虐待予防、防止に努める。 また、具体的支援を実施をしながらも、その家庭の育児力を向上させる支援を実施する。
得られなかった			
連携・協力について	(1)連携・協力・協働できたか	(2)できた場合はどのような点で連携・協力・協働できたか、できなかった場合は連携・協力・協働できなかった理由	(3)20年度事業計画への反映
	できた	支援に入った際、他支援者と方針を再確認する必要等が多々生じるため、連携、協力は必須であるため、支援サービス連絡調整会議で情報の共有を図った。 また、育児・家事等の援助はNPO団体等に対して委託を行い、事業を推進している。地域での見守りという観点から連携・協力・協働を行うことができた。	日常生活支援と専門的支援の、より密な連携体制を整える。 また、日常的支援については平成19年度同様に業務委託を行い、連携・協力・協働を強めていく。
できなかった			

## 次世代育成支援対策交付金事業の事後評価資料

### ファミリーサポートセンター事業【14-12】

資料

・事業内容

ファミリーサポートセンター(地域において子どもの預かり等の援助を行いたい者と援助を受けたい者からなる会員組織をいう)を設立して行う以下に掲げる事業。

- ・会員の募集、登録その他の会員組織業務
- ・相互援助活動の調整等
- ・会員に対して相互援助に必要な知識を付与する講習会の開催
- ・会員の交流を深め、情報交換の場を提供するための交流会の開催
- ・子育て支援関連施設・事業(乳児院、保育所、地域子育て支援拠点事業、病児・病後児保育事業、子育て短期支援事業、児童館等)との連絡調整

・事業量実績(2月末時点) ( )内は事業計画

支援会員数	依頼会員数	両方会員数	活動件数	
( 363 人)	( 1094 人)	( 80 人)	保育施設の保育開始時や保育終了後の子どもの預かり	1,235 件
			保育施設までの送迎	705 件
			放課後児童クラブ(子どもの家)終了後の子どもの預かり	508 件
411 人	1,170 人	98 人	学校の放課後の子どもの預かり	134 件
			冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際の子どもの預かり	40 件
			買い物等外出の際の子どもの預かり	706 件
			その他 ・養護学校への送迎 ・依頼者宅での保育・見守り 等	2,507 件

事業ごとの評価、改善に向けた取組状況等

	(1)事業計画と実施結果との間に大きな乖離がなかったか	(2)乖離の原因や実施主体、実施方法等の見直し	(3)20年度事業計画への反映
事業量について	あった		事業については着実に推進されている。更なる事業推進のため、事業の要となる支援会員の確保について工夫を図る。
	なかった		
事業内容について	得られた	会員数の増加があらわすように、事業についての周知が図れてきている。しかしながら、依頼内容に支援会員が追いつかない面もあることから、更なる事業内容の周知を行うとともに、支援会員の確保に努める。	事業内容の周知及び支援会員の確保に向けて工夫を図る。
	得られなかった		
連携・協力・協働について	(1)連携・協力・協働できたか	(2)できた場合はどのような点で連携・協力・協働できたか、できなかった場合は連携・協力・協働できなかった理由	(3)20年度事業計画への反映
	できた	運営について、NPO法人に委託をし、事業内容について事業を協働で推進した。	引き続き事業運営について協働で推進をしていく。
	できなかった		

## 次世代育成支援対策交付金事業の事後評価資料

### 子育て短期支援事業【14-9】【14-4】

資料

・事業内容

保護者の疾病その他の理由により過程において児童を養育することが一時的に困難となった場合及び経済的な理由により緊急一時的に母子を保護することが必要な場合に、児童養護施設その他の保護を適切に行うことのできる施設において一定期間、養育・保護を行うことにより、これらの児童及びその家庭の福祉の向上を図ることを目的とする事業。

ア 短期入所生活援助(ショートステイ)事業

保護者が疾病、疲労その他の身体上若しくは精神上又は環境上の理由により家庭において児童を養育することが一時的に困難になった場合や経済的な理由により

緊急一時的に母子を保護することが必要な場合等に実施施設において養育・保護を行うものとする。

イ 夜間養護等(トワイライト)事業

・事業量実績(2月末時点)

短期入所生活援助(ショートステイ)事業 ( )内は事業計画

施設種別	施設名	利用人数		
		2歳未満児	2歳以上児	緊急一時保護の母親
認定保育施設	保育園アワーキッズ鎌倉	(2人日) 2人日	(8人日) 10人日	(0人日) 0人日
児童養護施設	鎌倉児童ホーム	(0人日) 0人日	(0人日) 0人日	(9人日) 0人日
助産院	齋藤助産院	(0人日) 0人日	(0人日) 0人日	(0人日) 0人日

夜間養護等(トワイライト)事業

<div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); font-size: 2em;"> </div>	実施なし
---	------

事業ごとの評価、改善に向けた取組状況等

	(1)事業計画と実施結果との間に大きな乖離がなかったか	(2)乖離の原因や実施主体、実施方法等の見直し	(3)20年度事業計画への反映
事業量について	あった	短期入所生活援助(ショートステイ)事業については、事業計画と事業結果の間に若干の乖離があった。原因としては、制度の特殊性がある。 事業委託先の追加が出来、受け入れ体制の充実に努めることが出来た。夜間養護等(トワイライト)事業については、未実施。	平成19年度同様、受け入れ体制を確実なものにしていきます。
	なかった		
事業内容について	(1)事業計画が想定した利用や効果が得られたか	(2)想定した利用や効果が得られた、または得られなかった原因や、より効果的な事業展開を図っていくための課題	(3)20年度事業計画への反映
	得られた	制度の特殊性は、あるものの、利用周知が浸透してきている。	関係機関等に対してさらなる事業周知を行っていきます。
連携・協力について	(1)連携・協力・協働できたか	(2)できた場合はどのような点で連携・協力・協働できたか、できなかった場合は連携・協力・協働できなかった理由	(3)20年度事業計画への反映
	できた	児童環境の状況から事業を利用する必要がある場合などの把握について、連携を図り対応することが出来た。	今後も関係機関との連携を図り事業を推進していきます。
	できなかった		

## 次世代育成支援対策交付金事業の事後評価資料

### 延長保育促進事業【14-2】

資料

・事業内容

児童福祉法第39条に規定する、民間保育所の開所時間を超えた保育を行う事業。

ア 延長保育推進事業

イの事業を実施する民間保育所における保育士配置の充実を図ることにより、11時間の開所時間の始期及び終期前後の保育需要への対応の推進を図るもの。

イ 延長保育事業

民間保育所の11時間の開所時間の前後の時間において、さらに30分以上の延長保育を実施するもの

・事業量実績(2月末時点) ( )内は事業計画

実施場所	年間事業月数	延長時間		平均対象児童数		職員の配置				
						延長保育推進事業		延長保育事業		
富士愛育園	12月	(前 時間)	前 時間	(前 人)	前 人	(1人)	1	人	(前 人)	前 人
		(後 1 時間)	後 1 時間	(後 9 人)	後 10 人				(後 2 人)	後 2 人
聖アンナの園	12月	(前 時間)	前 時間	(前 人)	前 人	(1人)	1	人	(前 人)	前 人
		(後 1 時間)	後 1 時間	(後 23 人)	後 11 人				(後 2 人)	後 2 人
岩瀬保育園	12月	(前 時間)	前 時間	(前 人)	前 人	(1人)	1	人	(前 人)	前 人
		(後 1 時間)	後 1 時間	(後 9 人)	後 11 人				(後 2 人)	後 2 人
オレンジ	12月	(前 時間)	前 時間	(前 人)	前 人	(1人)	1	人	(前 人)	前 人
		(後 1 時間)	後 1 時間	(後 17 人)	後 14 人				(後 2 人)	後 2 人
清心保育園	12月	(前 時間)	前 時間	(前 人)	前 人	(1人)	1	人	(前 人)	前 人
		(後 1 時間)	後 1 時間	(後 10 人)	後 10 人				(後 2 人)	後 2 人
こばとナーサリー	12月	(前 時間)	前 時間	(前 人)	前 人	(1人)	1	人	(前 人)	前 人
		(後 1 時間)	後 1 時間	(後 10 人)	後 9 人				(後 2 人)	後 2 人
大船ひまわり保育園	12月	(前 時間)	前 時間	(前 人)	前 人	(1人)	1	人	(前 人)	前 人
		(後 1 時間)	後 1 時間	(後 6 人)	後 8 人				(後 2 人)	後 2 人
たんぼぼ共同保育園	12月	(前 時間)	前 時間	(前 人)	前 人	(1人)	1	人	(前 人)	前 人
		(後 1 時間)	後 1 時間	(後 9 人)	後 9 人				(後 2 人)	後 2 人

### 事業ごとの評価、改善に向けた取組状況等

事業量について	(1) 事業計画と実施結果との間に大きな乖離がなかったか	(2) 乖離の原因や実施主体、実施方法等の見直し	(3) 20年度事業計画への反映
	あった	聖アンナの園の平均対象児童数で乖離があった。前年度と同程度を見込んでいたが、今年度は利用希望者が減り、見込みを下回ったことによる。	
なかった			
事業内容について	(1) 事業計画が想定した利用や効果が得られたか	(2) 想定した利用や効果が得られた、または得られなかった原因や、より効果的な事業展開を図っていくための課題	(3) 20年度事業計画への反映
	得られた	事業者(民間保育園)との連携・協力・協働により、利用希望者に十分対応できており、事業の効果は得られている。	平成20年度も同様に事業の実施がなされるよう取り組む。
得られなかった			
連携・協力について	(1) 連携・協力・協働できたか	(2) できた場合はどのような点で連携・協力・協働できたか、できなかった場合は連携・協力・協働できなかった理由	(3) 20年度事業計画への反映
	できた	事業実施に伴う問題点及び改善点について、事業者(民間保育園)と協議、意見交換等(園長会議等)連携を図ることにより、議題を共有し、事業者(民間保育園)のより質の高い効率的な事業実施に協力した。	平成20年度も同様に連携・協力・協働を図りながら、より質の高い効率的な事業がなされるよう、取り組む。
できなかった			